

看護職員の負担の軽減および処遇の改善に対する計画書

(目的)

1. 看護職員の負担軽減及び処遇改善委員会（以下「委員会」という。）

は、看護職員の負担軽減及び処遇の改善に努め、労働環境の改善を図ることを目的とする。

病床規模：193床 看護職員合計100名+作業療法士1名（認知症治療病棟専属）

看護師：常勤37名・非常勤8名

准看護師：常勤28名・非常勤5名

看護補助者：常勤20名・非常勤2名

項目	計画	実行	評価
育児休業（0名） 育児短時間就労〔2名〕 産休（1名） 介護休業（0名）	<ul style="list-style-type: none">多様な勤務形態の取り入れ夜勤の免除短時間勤務夜勤3人体制（2F）	人員配置 常勤・非常勤採用	多様な時間帯での勤務により働きやすい環境を整えた。 夜勤希望の看護補助者を2Fの認知症治療病棟へ配置。夜勤3人体制により、負担軽減につなげた。
業務	<ul style="list-style-type: none">看護補助者の業務の明確化看護補助の業務拡大師長研修会看護補助者の増員他職種との業務分担残業0を目指す	研修会参加 メッセンジャー 院外研修会参加予定 病棟内送迎などは、 その部署の助手業務	看護補助者の業務マニュアル作成 看護補助者のメッセンジャー稼働 精神科病院協会・日精看研修参加 多職種と協力・連携での役割分担 看護補助者の入職あるも、数的には今後の退職を考えると不安あり
夜勤業務	<ul style="list-style-type: none">準夜～日勤の勤務は作らない負担のない夜勤勤務作成確実な休憩時間の確保救急輪番日負担軽減看護補助者の夜勤サポート負担病棟の軽減2交替・3交替の導入夜勤3人体制（2F）	勤務表監査 同上 夜勤専従導入 夜勤者増員（2F） 遅出・昼勤務 遅出1名増員 配置転換にて増員 アンケート実施	選択制の夜勤（2交替・3交替）を導入実践中。休憩時間は確保できている。救急輪番については当直制ではなく、準夜・深夜の交代制によって心労を減らしている。介護介入の負担が大きい病棟は、遅出1名増員や夜勤3人体制を導入することで負担を減らしている。
身体合併症	<ul style="list-style-type: none">専門性の高い疾患は専門病院へ転院	本人と家族へ入院時や病状悪化時に意向を確認	本人の意思確認ができない場合は家族の意向を医師が介入し、方向性の確認ができている。